



学校だより アンケート特集号

前期の児童アンケート結果です。結果の集計とそこからわかる傾向と今後の課題について、考察してみましたのでお知らせいたします。

低学年・中学年・高学年と学年が進むにつれて各項目の割合はどう変わっていくかを調べました。

平成30年9月

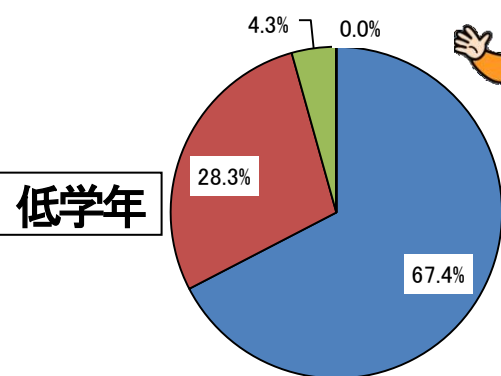
京都市立桂東小学校

校長 和田 英明

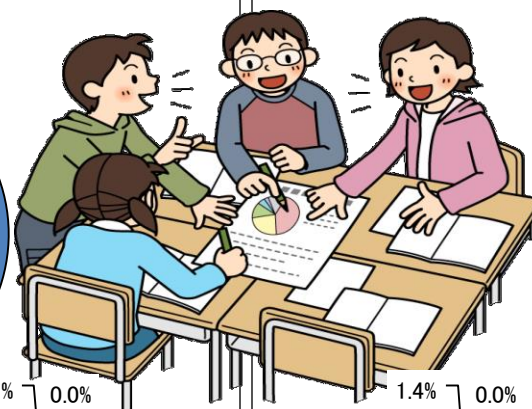
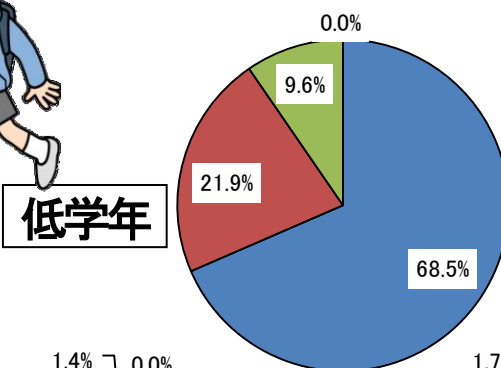


子どもたちのアンケート結果から（１）

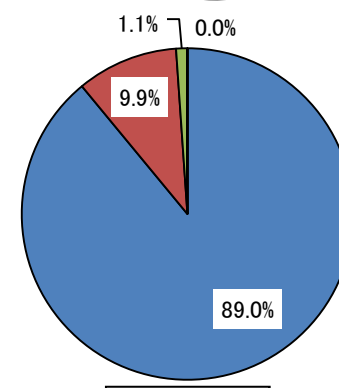
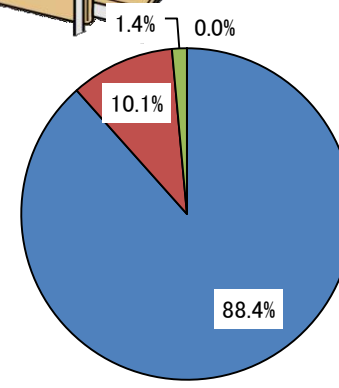
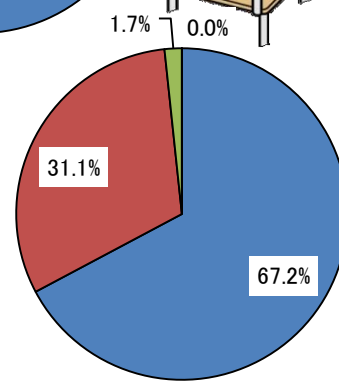
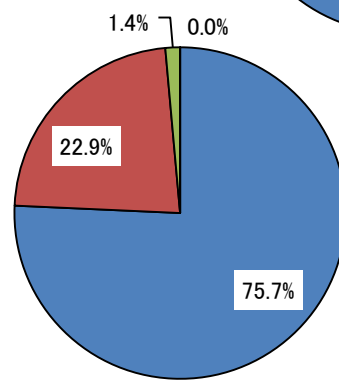
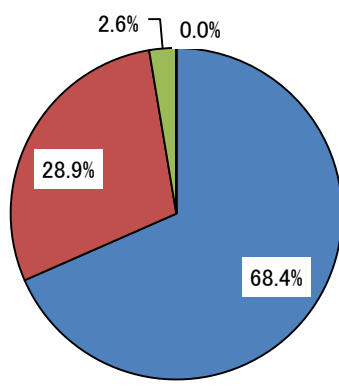
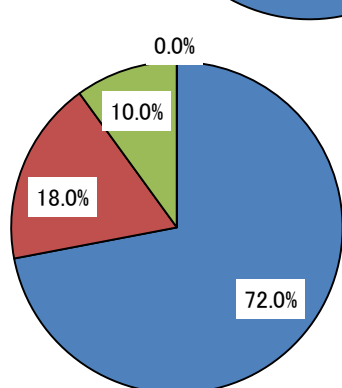
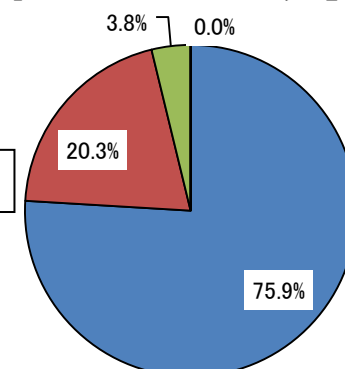
『学校はたのしいです。』



『自分の考えをしっかりと発表したり、友だちの意見をしっかりと聞いて、友だちと一緒に学習しています。』



『「あいさつ・ベル着・トイレのスリッパ」がしっかりとできています。』



“とても楽しい” “まあまあ楽しい” を合すると、低学年・中学年・高学年ともにほとんど差異はなく、いずれも90～95%ぐらいを推移しており、高学年も結構高い数字となっており、うれしく思っています。

しかし、“楽しくない” はどの学年も0%でしたが、“あまり楽しくない” が高学年が一番低く、中学年が10%と低学年の約2倍、高学年の約4倍と高くなっています。中学年になってくると学習も抽象的になり、難しくなってきます。また、自分のめあてを持ち、モチベーションを持続して主体的に取り組めるような行事や部活動などが高学年に比べると少なく、充実感・成就感を感じるものが少なく、このような結果になっているのかもしれない。友だち関係も低学年に比べて難しくなってきます。

個人差の問題でもあり、お子たちのことでご心配なことがありましたら、すぐに担任にご相談ください。

“出来ていない” はどの学年も0%でした。“あまり出来ていない” は、低学年9.6%、中学年1.4%、高学年1.7%と低学年の回答が高くなっています。目的を明確にした子ども同士の協働を取り入れた学習は低学年の児童には難しいので、このような結果になったと思います。「主体的・対話的で深い学び」を目指して、発達段階に応じて段階的に自ら学びに向かう力を育てていきたいと思っています。1年生は、徹底的にしっかりと「聞く」、しっかりと「話す」指導力を入れていきます。また、自分の考えが深まったり、変容していく様子が実感としてとらえられるような話し合い活動に取り組んでいきたいです。そして、一人ではなく、みんなと一緒に課題を発見し、解決していくプロセスを楽しみ、みんなで課題解決できた喜び、成就感を実感として味わえるような学習を積み重ねていきたいと思っています。さらに、自学自習の習慣化を図るため、授業と連動した予習・復習につながる毎日の家庭学習のあり方を考えていきたいと思っています。

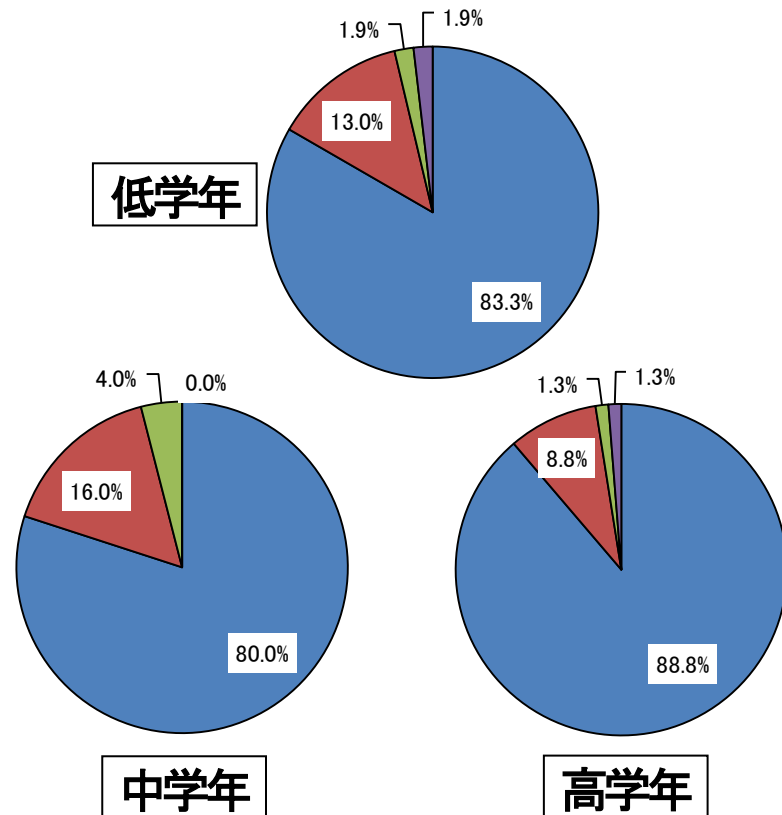
“よく出来ている” と“大体出来ている” とを合わせると低学年・中学年・高学年ともにほとんど差異はなく、いずれも96～98%ぐらいを推移しており、高学年も98.9%とかなり高い数字となっており、“出来ていない” がどの学年も0%です。保護者アンケートの実現度でも98.4%と大変高い結果となっています。学校で出来ていても、家庭や地域では出来ていないことが多かったのですが、学校でも家庭でもよい結果が出ていて、大変うれしく思っています。

「時を守り、場を清め、礼を正す」人として大切なことが集約されている言葉です。わたしたち教職員から率先して襟を正していきたいと思っています。子どもたちには、よりわかりやすく、成果が見えやすいようにと「あいさつ・ベル着・トイレのスリッパ」という言葉を合言葉に取り組んでいます。今後も、“人・もの・時間を大切にする” この3つの視点で、学校と家庭で共に子どもたちを育てていきたいと思っています。ご理解・ご協力よろしくお願い申し上げます。



子どもたちのアンケート結果から（２）

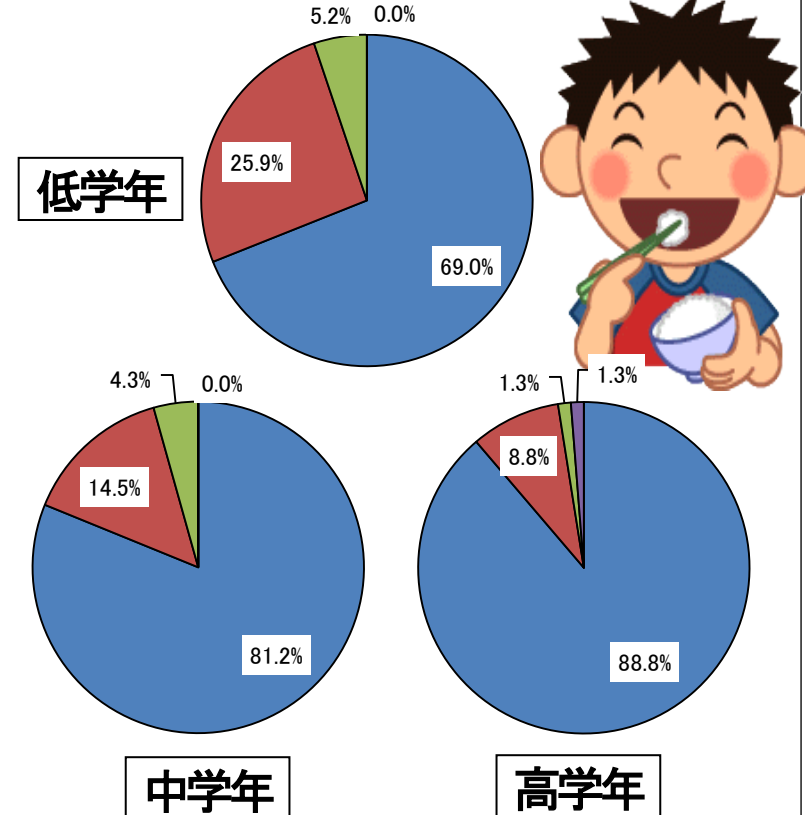
『学校のきまりや社会のルールをしっかり守っています。』



“よく出来ている”と“大体出来ている”とを合わせた肯定的な回答は、低学年・中学年・高学年ともにほとんど差異はなく、96%～97%と高水準を推移しています。ところが、保護者アンケートの実現度では、12.5%と低い結果となっております。子どもたちと保護者の間にこれほどの温度差があるのは、学校では出来ているが、家庭や地域では出来ていないということになると思います。

社会生活を営む上で、規範意識の重要性が言われ始めて久しいですが、規範意識は家庭において、規則正しい睡眠や食事等の基本的な生活習慣、または家庭の手伝い等、家庭教育を土台とし、その土台のもとに、学校においてきまりを守ること及び他者との関わりを大事にするための具体的な活動を通じて育まれるものと考えています。学校では、子どもたちにわかりやすいように、よくスポーツを例に挙げて、ルールがあるからみんなが安全で安心してスポーツを楽しめるのだと指導します。ご家庭でも各ご家庭の事情に合った指導で子どもたちの規範意識を高めていただければと願っております。今後とも、ご理解・ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

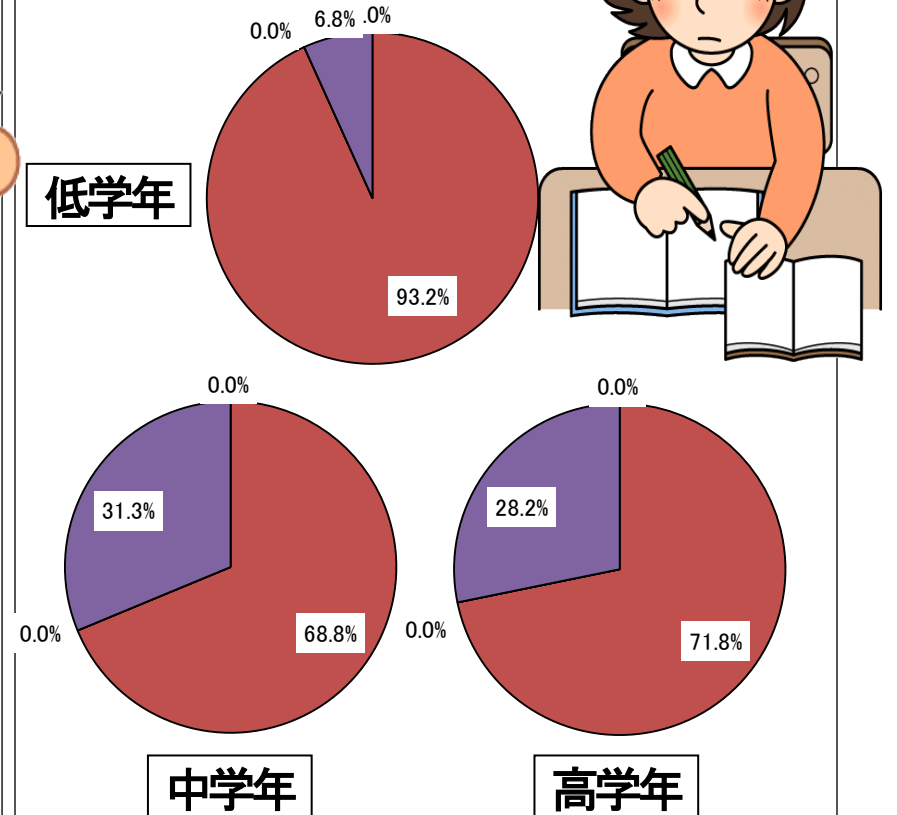
『健康に気をつけ、食事は好き嫌いなく食べています。』



“よく出来ている”と“大体出来ている”とを合わせた肯定的な回答は、低学年94.9%、中学年95.7%、高学年97.6%という結果となっております。保護者アンケートの実現度でも99.4%となっております。全体的に安定した食生活を送っているように思われます。ただ、“出来ていない”が低学年と中学年は0%であるのに、高学年が1.3%となっております。高学年ぐらいの子どもには、各ご家庭でいろいろな事情で食事の用意ができず、コンビニエンス・ストアでお弁当を買ってきて食べるように言うこともあると思います。それは、やむを得ないことだと思いますが、そのことが習慣化しないようにしていきたいです。

給食の残菜もほとんどなく、栄養教諭による各学級での食の指導も充実しております。着実に成果が現れております。また、学校では和やかな雰囲気の中で、みんなと一緒に食べる喜びや楽しさを味わいながら食べております。各ご家庭でも進んで食べようとする気持ちを育てる食卓の場の設定にも十分配慮をお願いいたします。

『家でしっかり学習しています。』



“よく出来ている”0%が残念です。“大体出来ている”は、低学年が93.2%と高く、中学年と高学年は70%前後を推移しています。

低学年の場合、子どもさんのお話を聴くことが大事だと思います。今日、学校で学習した内容でわかったところ、わからなかったところも、丁寧に聴いてあげることで、お子たちにとっても何を勉強したか、どこがわからないかなど、はっきりしてくるのではないのでしょうか。保護者の皆様もお忙しいので難しいとは思いますが、できれば保護者の方がすぐそばで見守ってあげれば、お子たちも安心して学習に取り組んでいくことができます。いろいろな方法はあると思いますが、このことを繰り返すことで、家庭での学習の習慣化を図っていただければいいかなと思います。

中学年も高学年も基本的には低学年の場合と同じだと思いますが、なかなか親子の会話が難しいと思います。そこで、自主学習ノートで家庭学習を積み上げていき、小さな成功体験を積み重ねながら達成感を味わっていくことで、学習への意欲を高めていくことにつなげていただければと思います。